

有田プラス1プロジェクト

有田に恋する5秒前。

2組 3班

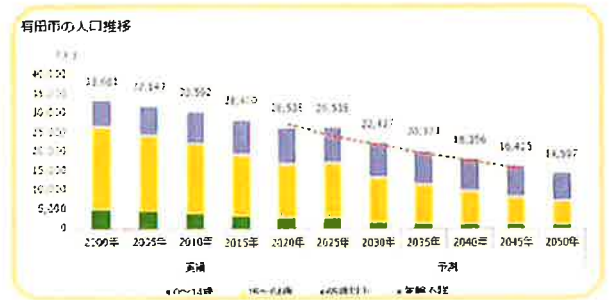
現状

少子高齢化が進む。→農業人口が減少している

農業企業の倒産

耕作放置の増加（森林77%）

外来生物の侵入により生物多様性が低下



課題

- ・人口減少
- ・高齢化にともなう過疎化
- ・産業の担い手不足（特に有田ミカン）
- ・自然災害の対策（津波、水害）
- ・産業発展の可能性はあるが、課題が多い

プラス1

目的

有田の魅力を知ってもらいたい！

有田ミカンをもっと知ってもらう。

イベント・SNS（リアル動画など）、若者に向けて発信

↳ 後継者不足かいしょう
農業人口の増加

SNS映えする
ようなもの

「やってみた系」
など見てくれるよ
うなもの

比較的に観光客の多い地/島などの活動をふやす。

→有田をもっと知ってもらう！

イベント 体験的なイベント

ミカン狩り 10月上旬-12月上旬

みかん狩りが終わった後も一日中楽しめる企画を用意
(オレンジジュース作り、みかんを使ったお菓子作りなど)

うたせで釣りの体験

キャンプ、調理体験

できること BBQ、海水浴、自然体験など



地/島でも行える

有田プラス1プロジェクト

有田を知ってもらおう大作戦

現状

- ・ 有田市の人口は令和7年で24520人で、その内の3.5割が高齢者である。
- ・ 和歌山市では毎日イベントが行われているのに対して、有田市は約月4でイベントが行われている。
- ・ 有田市にはイオンなどの大きな建物がほぼ無い。



港まつりの様子

提案

- ・ 年齢関係なく参加できるようなイベントを開催する。
 - ・ 今まで行ってきたイベントの回数を増やす。
 - ・ ショッピングモールなどの店を増やす。
- 有田に関するイベントを開催する。
例) 有田みかん海道マラソン、
アグリファンフェスタ、
浜のうたせ、
えみくるマルシェ…など
- みかんを使った食品や商品をイベントで披露する。



宣伝方法

- ・ ポスターを作って人がよく通りそうなところに貼る。
- ・ チラシを作って配る。

有田の食産物・食文化

有田市の食産物・食文化があまり広がっていないから広めよう！

◎広める方法



インターネットで宣伝→見た人の気を引く
(興味を持たせる)

- ①YouTubeを運営している有田市秘書広報課の人と話してメリットを多く伝える
- ②許可をもらえたらYouTubeで有田市の食産物・食文化について発信する

ポスターを作って貼る→全国に宣伝、
人々に知ってもらう

- ①若者が興味を示すようなポスターをCanvaでつくる
- ②コンビニでプリントする
- ③業者に頼みポスターを無料搭載できるところに搭載してもらう



テーマ: **観光スポットを宣伝する**

メンバー

【テーマ決定の理由】

有田市は美しい自然環境や歴史的な建物など、多くの観光できる場所があります。しかし、その魅力が十分に知られていないので、その魅力を伝えて観光客を増やそうと考えました。そこで、有田市の強みである豊かな観光資源を最大限に生かすために、「観光スポットを宣伝する」ことをテーマに選びました。このテーマを通じて、有田市の知られていない魅力や特色ある観光地を効果的に発信し、特に「地ノ島」により多くの人々に訪れてもらう機会をつくろうと思いました。

<現状>

- 1, **自然環境の保護**(無人島であるため、訪問者に夜自然環境への影響やごみの問題が懸念されることがある)
- 2, **施設の維持管理**(無人島であるため、施設の維持や管理が良くないとき、利用者の安全や快適性に影響を及ぼす可能性がある)
- 3, **持続可能な観光の難しさ**(観光客を増やすことと自然保護の両立が難しく、観光客増加による環境負荷増大の懸念がある)

プラスワンすること

有田市の観光スポットPRアカウントを作る
有名人にお願いをして地ノ島にきてもらう



情報の伝え方

1. SNS活用

今流行りのSNSのティックトック、インスタグラムなどのSNSを使って、情報をたくさん調べて書いたものを投稿する

2. 個別の特徴を強調する

ほかの場所と比べてその場所が持っている独自の特徴や魅力を強調する。例えば、静かなカフェや見晴らしの良い展望台、地元でしか味わえない食べ物など、その場所ならではのものを伝える。

3. 自分の体験を共有する

自分自身がその場所でどんな体験をしたのか、どんな感動を覚えたのかをシェアすることで、他の人に感情的に響かせることができる。人は他の人の体験談に共感することが多いため、リアルな声を届けることが重要。

影響

・認知度の向上

SNSは拡散力が強いいため、観光スポットの存在を多くの人に知ってもらいやすくなる。特に写真や動画を使って魅力を視覚的に伝えることで、より興味をひきやすいです。

・リアルタイムな情報発信

イベント情報や季節ごとのおすすめポイント、混雑状況などをリアルタイムで発信でき、訪問者の利便性が高まります。

・ターゲット層へのアプローチ

SNSでは年齢や趣味、地域などでターゲットを絞った広告や投稿ができるため、より効果的に興味を持ちそうな層へリーチできます。

有田の魅力世界へ発信 SNSで広がる熊野古道と地域文化の旅

テーマ決定の理由

有田市の熊野古道（紀伊路）自体は田辺市などの伊勢路に比べて観光客の数が少ない。同じ熊野古道なのに認知度が少ないのが残念だから**紀伊路の観光客を増やす**ため。



地域の文化や伝統の紹介

有田をもっと知ってもらうことで有田への観光や客が増えること間違いなし！
地元の祭りや行事、有田市で開催される「紀文祭り」などのイベントを紹介することも有効！
有田熊野古道の森林を地元の人たちで綺麗にするイベント
開催することで観光客も増えるし環境問題にも取り組める一石二鳥

紹介方法



熊野古道情報発信

道沿いの観光スポットの紹介
熊野古道を歩くルート上には美しい景観や歴史的な神社
(山口王子社・糸我王子社跡など)



5組 6班

Teenager Arida city チャンネル

現状

有田市総人口:25721人 X:1,151人
インスタ:4706人 Youtube:4780人

課題

- ・少子高齢化 若い人がすくないから整備などがとどいていない
- ・人口減少 人がすくないから町がしずか 減少率-7.59%
- ・知名度が低い もっといろんなひとに知ってもらう必要がある
- ・交通の便が悪い 高齢者がおおいのに気軽に買い物などができない
- ・過疎化が進んでいる 人口の減少によって電車が1時間に一本しか出ない

プラス1の取り組み

有和中生がインスタ・Youtube・TikTokなどのSNS等を利用する。
そして、有田市の良さを発信するチャンネルを作り、中学生からの目線で有田市の良さを世界中に発信する。編集は大人。

例えば

- ・月に一回に投稿
- ・現地の人に有田市についてインタビュー的なことをする
- ・ノーカットでたまにお届けする。

- ・もっと多くの人に有田の良さを知ってもらいたいから。
- ・有田市の農産物のよさを知ってもらえる活動をする。

2年1組1班



Arida Plus

～SNSでつながる、伝統と革新の境界線～

2年1組3班

課題

・地域活力・人口を増やす

・観光客が多い(R5には73万人)のに、
人口が少なく働き手と若い世代が少ない

・魅力を若い世代に知ってもら



現状

人口が減少している

→2019年の推計人口は26,434人で、2060年には10,726人まで減少すると
言われている。

・少子高齢化の本格的な進み

→人口約25000のうち、約4割が60歳以上

・地域活力の低下

→少子高齢化による影響



プラス1

若い人や旅行先に悩んでいる人に向けて、
観光スポットの写真をとってインスタに投稿する。

市役所、校長などの有田市に詳しい人に、話を聞き、月に1
回投稿する



有和中学校から発信！ 有田の魅力をあなたにお届け！

現状

- ・人口…約24000人 少子高齢化が進んでいる
- ・電車 御坊行きは60分に1, 2本
和歌山行きは30分に1本

課題

- ・人口を増やす 今の人口の **2倍**
- ・経済成長
1829億円から **1900億円**に
- ・地域コミュニティの維持



プラス1の取り組み

- ・有田市付近・有田市以外の若い人に見てもらえるように、ユーチューブ・インスタを使って発信する（一週間で約二回）
- ・たくさんの人が見てくれるようなインパクトのある動画を投稿する（インタビュー・ミカン狩り・公園の遊具の紹介など）

2年1組4班